



屋根への吹き付け

壁への吹き付け

床への吹き付け



水から生まれた現場発泡断熱材 アクアフォームで 省エネ住宅

現在、住まい造りに欠かせない省CO₂化・省エネルギーをはかるための次世代省エネ住宅の導入[※]が求められています。アクアフォームで断熱した住宅は、暖冷房エネルギーを削減する事ができ、CO₂の排出量を減らす事が可能です。アクアフォームで地球に優しい住まい造りをしませんか。

※平成21年4月1日施行予定の省エネ法の改正に伴い、省エネ性能の向上をより本格的に求められます。

アクアフォームを採用する決め手はこれ!!

水
の
力
で
発
泡
す
る
か
ら
人
・
環
境
に
優
し
い



高断熱・高气密

現場吹付施工なので超微細の連続気泡が隙間のない断熱層を形成し、高い断熱効果を発揮します。

長期安定性能

自己接着能力により耐久性を高めます。また、吸水性が低いため断熱材の内部結露も起こりにくく建物を健康な状態に維持します。

次世代省エネ

難しい手続き不要、複雑な施工なし、更にわずかなコストアップで次世代省エネ住宅として施工できます。

エコロジー

オゾン層を破壊するフロンガスや、アレルギー等の原因とされるホルムアルデヒドを発生させません。

吸音性能

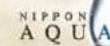
細かな気泡構造で音をスポンジ状のフォーム内に分散し、騒音や生活音の漏れを吸音します。

気密測定（施工後）

ご希望の方には気密測定を実施し、基準値を満たすことを証明する高气密住宅認定書を発行しています。

データで分かる高品質 性能データ

まるでホイップクリームみたい！
この細かな気泡で家を包み込むから
高性能なのねえ〜



アクアフォームは無数の細かい連続気泡の中に多量の空気を含んでいるため、他の断熱材に比べて優れた断熱性能を発揮します。

DATA 1. 断熱性

厚み比較

サーモグラフィーカメラでの検証



2階リビング天井の内部熱画像です。内層熱画像です。特に温度差は確認されませんでした。

項目	断熱材品種	熱伝導率 w/mk(kcal/mh°C)	住宅金融公庫断熱区分	相当断熱厚(割合)
アクアフォーム	硬質ウレタン	0.034(0.029)	D	100
フェノールフォーム	フェノールフォーム	0.020(0.017)	F	60
繊維系断熱材(グラスウール)	10K	0.053(0.045)	A	160
	16K	0.046(0.039)	B	140

※熱伝導率は熱の伝わりやすさを表すもので数値が小さいほど断熱性に優れています。住宅金融公庫断熱区分はA-Fの6段階でFに近くなるほど断熱性に優れています。※相当断熱厚(割合)とはアクアフォームを100とした場合に同等の断熱性を確保するために必要な厚みを表します。

DATA 2. 気密性

自己接着力

住宅の躯体に直接吹付発泡施工するアクアフォームは隙間なく一体化した断熱材構造で、優れた気密性を発揮します。また、他の断熱材にはない自己接着力を持っています。

項目	断熱材品種	相当断熱面積0値 (cm ² /m ²)
アクアフォーム	硬質ウレタン	0.5~2.0

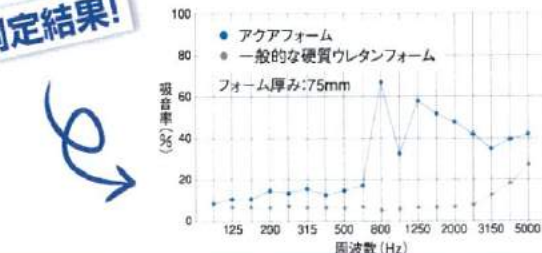
項目	断熱材品種	自己接着力N/cm ² (kgf/cm ²)
アクアフォーム	硬質ウレタン	4.5 (0.5)

※0値については省エネ法の仕様基準に基づいて施工した場合。

DATA 3. 吸音性

測定結果!

管内法での建築材料の垂直入射吸音率測定方法 (JIS A 1405) 柔軟性に富んだアクアフォームは微細連続気泡構造で、一般的な独立気泡構造と比較し、吸音性に優れています。



DATA 4. その他の性能

総合結果!

総合的にみてもアクアフォームの優れた性能はお分かりいただけます。

品質性能試験報告書



アクアフォームの総合性能[断熱性能・通気性能・透湿性能・燃焼特性]		
燃焼特性 JISA9526	熱伝導率w/m-k	0.034
	熱伝導率kcal/mh°C	0.029
透湿性能 JISA9526	透湿度係数(厚さ25mm)ng/m ² ・S・Pa	667
燃焼特性 JISA9526	燃焼距離(mm)	60以下
	燃焼時間(sec)	120以内



株式会社日本アクア

資料をご希望の方は、下記へお気軽にお問合せください。

<http://www.n-aqua.co.jp>